鬼石中だより

自立・貢献
藤岡市立鬼石中学校
令和7年度学校だより　第6号
令和７年７月１８日
文責：校長　五十嵐

＊ １学期大変お世話になりました ＊

本日１学期の終業式を迎えます。新年度のスタート以降、あっという間の4ヶ月でした。学校運営にあたり保護者、地域の皆様からは様々なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様のお力添えにより、教育活動の充実を図ることができました。登下校の見守り、あいさつ運動、読み聞かせ、英語検定監督、社会人に話を聞く会、部活動指導、学校美化活動、学校行事の応援等、様々な場面で多くの皆様にご協力をいただきました。改めて御礼申し上げます。引き続き、家庭、地域、学校の協働により、健やかな生徒の育成を図ってまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

＊ 「達成するまで継続する」（１学期終業式校長の話より） ＊

大きな行事や取組を終え、新たな目標を設定し動き出すタイミングとなりました。夏休みを前にして、生徒たちに以下のような話をしました。有意義な実り多い４０日間になるよう、この話を参考にしていただき、家庭でも子供たちにご支援ください。

７月の朝礼で、『掲げた目標の達成に向けて「本気で」取り組む』ということについて話をしました。今回はその続きで、「本気で」取り組むとはどういうことなのかについて話します。

「本気で」取り組むとはどういうことなのか、それは、ズバリ「達成するまで継続する（やり続ける）」ということです。よく「継続は力なり」と言いますが、まさにこの言葉の通りです。

例えば、複雑な計算を解くためには、難しい漢字を書けるようになるためには、解けるまで、書けるようになるまで、勉強を通して練習し続けるしかありません。何十回、何百回と繰り返し練習して、無意識に手が動くようになるほどまで鍛錬するしかないのです。

鍛練とは、宮本武蔵の五輪書の「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とす」という言葉に由来します。千日の練習で基本的な技が身につき、万日の練習でその技が磨かれて名人の域に達するようになる（思い通りにできるようになる）ということです。千日は3年間、万日は30年間ですから、長く苦しい練習に耐えながら、繰り返し積み上げる努力なしには物事は為しえません。つまり、新しいことができるようになるには、かなりの日数と練習が必要なのです。鍛錬とは「毎日の地味な基本の積み重ね」であり、「行動の徹底した継続」ということです。

さて、明日から夏休みとなります。有意義な40日にするために、自分の成長につなげるための目標を設定し、その達成に向けた取組を休まず継続しよう。休まず継続するということは、一日も休まずに継続してやるということです。ただ、決意してやり始める人はたくさんいますが、それを続けられる人は少ない。先ほど言ったように、やり続けることは難しいことなのです。途中でやめてしまったり、最後まで続かなかったりということは誰もが経験している事だと思います。そこで、皆さんが取組を継続できるよう、『継続維持の4箇条』を示しますので、参考にしてください。

①継続に特効薬なしと覚悟せよ!

→　成功に近道なし、鍛錬あるのみ。

②「忍耐」や「根気」から「スモールサクセス」へと発想を転換せよ!

→　柔軟な発想で気持ちをポジティブな方向に転換。

③掲げた目標を「やりたい」「やってみたい」という意欲に昇華せよ!

→　誰のためでもない自分のための大切な目標という意識を。

④取り組んだことを毎日記録し見える化せよ!

→　成果が見えることで生まれる意欲やこだわり。

校長からの夏休みの課題（全員）

自分の成長につなげるための目標を設定し、その達成に向けた取組を１日も休まず継続する！

継続維持の４箇条

1．継続に特効薬なしと覚悟せよ！
→　成功に近道なし、鍛錬あるのみ。

2．忍耐や根気からスモールサクセスへと発想を転換せよ！
→　柔軟な発想で気持ちをポジティブな方向に転換。

3．掲げた目標を「やらされる」のではなく「やりたい」「やってみたい」という意欲に昇華せよ！
→　誰のためでもない自分のための大切な目標という意識を。

4．取り組んだことを毎日記録し見える化せよ！
→　成果が見えることで生まれる意欲やこだわり。

達成するまで継続する

＊ １学期校長講話のまとめ ＊

昨年度に引き続き、今年度も集会や朝礼での校長から生徒たちへの発信は、「十文字タイトルの講話」で行いました。

今年度は、発信した内容を校内に掲示し見える化（生徒玄関の掲示板に専用のコーナーを設けました）することで、日常的に校長の話を意識して学校生活に臨むことができるよう、工夫・配慮しました。

１学期終了の節目を迎えるにあたって、4月からの4ヶ月間に発信した内容をまとめましたので、保護者や地域の皆様にもご一読いただき、子供たちとのコミュニケーションの話題にしていただけますとありがたく思います。

「自立の五行日常の五心」（4月朝礼＝学校教育目標「自立・貢献」の実現を目指して）

「自立」とは、自分のことは自分で考え、自分でできるようにしていくこと。「貢献」とは、人のことを思い、人と協力し、人のために行動できること。今年度は、「自立の五行」と「日常の五心」を鬼中生の行動指針とし、これらを実行していくことで、自立し・貢献できる生徒になってほしい。

「力強く育つ麦のように」（5月朝礼）

心身ともに成長するこの中学生の時期に、単に上にのみ伸びるだけでは、いろいろな抵抗にこらえることができなくなる。挫折や困難も、実は成長につながる大切な経験である。麦が踏まれることで根を強く張り丈夫に育つように、人間は辛さや苦しさを乗り越えることで命の根を深くし、精神力を身に付けることができる。

「誇りある鬼石中の創造」（5月生徒総会）

生徒会本部がスローガンとして「協働」を掲げたのは、本部だけでなく鬼中生75名全員が誇りある鬼石中を創るためにそれぞれの役割と責任に基づいて互いに尊重し、協力し合うことを目指しているからである。誇りある鬼石中学校を創るのは、生徒一人一人である。

「五事を正し良知を磨く」（6月朝礼＝人権集中学習校長講話）

五事とは→「貌（ぼう）＝表情」「言（げん）＝言葉遣い」「視（し）＝眼差し」「聴（ちょう）＝聴き方」「思（し）＝心」である。中江藤樹は、五事を正し良知を磨くことで、「相手を大切にする人」となっていくと説いた。鬼中生もこのような姿を目指したい。

「新鬼石中しぐさの徹底」（6月朝礼＝人権集中学習校長講話）

昨年度も取り組んだ「鬼石中しぐさ」を一歩前へ進める。そのために、先ずは、鬼石中生一人一人が五事を正し、良知を磨くことで、相手を大切にする心を整える。その心をかたちにした行動を「新鬼石中しぐさ」として、実行につなげていくことを全校生徒で徹底して行いたい。

※「鬼石中しぐさ」とは、相手を思いやりお互いが気持ちよく過ごすための行動のこと。具体的には、相手の良さに目を向け、温かい言葉をかけるなど、相手を大切にする行動のこと。本校の人権教育に係る取組の大切な柱となっています。

「鬼石中の勝利の方程式」（6月中体連夏季大会壮行会校長あいさつ）

勝利の方程式とは「心×（技＋体＋智）＝結果」。単なる4要素の足し算から結果が出るのではなく、「心」だけかけ算となっている。つまり、技術は未熟であっても、また体力や知識がもう一歩でも、心が一流であれば、好結果が期待できる。この積の意味を考えて、勝負に臨む心を準備する。 **※「勝利の方程式」は昨年度から意識して取り組んでいます。**

「誠を尽くせば天に通ず」（7月朝礼）

至誠とは目標達成に向けた偽りのない志のことで、別の言葉で言い換えると、達成に向けた「本気度」のことである。すなわち、一つ一つの課題に誠実に取り組み、努力をすれば、その思いは天に通じ、最後には必ず努力が報われ願いは叶う、ということ。